

発達を見る眼をゆたかに、 おおらかに

第8回 自分で考え 相手と折り合う



鳥取大学
寺川志奈子

てらかわ しなこ／鳥取大学地域学部。研究テーマは「子どもの自我、自己、および社会性の発達と教育的支援」について。共著に『自閉症児・発達障害児の教育目標・教育評価1 子どもの「ねがい」と授業づくり』（クリエイツかもがわ）など

友だちとの対話のなかでふくらむイメージの世界

5歳児クラスの子どもに「もしも○○ちゃんの背中に羽根がはえて、お空の上に飛んでいったとしたら、お空の上はどこなどところだと思おう？」と尋ねて、ひとりずつ空想したイメージを絵に描いてもらいました。Mくんは、飛行機や鳥たちと一緒に自分も飛んでいる天空の絵を書きました(図1)。

Hくんは、家や犬小屋がある地上の世界と、自分が飛んでいってみると飛行機が飛んでいた、天国に行ったおじいちゃんたちやそのお墓があったりと、天の神様が住むお空の世界の、2つの世界で構成された絵を書きました(図2)。

数日後、今度はMくんとHくんのふたりで一緒に1枚の紙に、同じテーマ「空の上の世界」の空想画を描いてもらいました。それが図3の絵です。まるでひとりが描いたような、まとまりのある1枚の絵に仕上がっています。それぞれが全体を見渡しながら、相手の描いている様子をうかがい、やりとりしながら自分の部分の役割を担って描いたので、紙の「真ん中」をとらえて上下・左右の空間関係が考えられた、まとまった絵ができあがりました。そこには、具体的なものを手がかりに目標に向かって「すじみちをつくって考える」ことができるようになった、5歳半頃に誕生する新しい発達の力が表れています。

はじめ、白紙を前にして、ふたりは肩を組み顔を見合わせ「何描く?」とヒソヒソ相談していました。M「空の上なんか知ってるわ、雷がいるだけやんなあー」、H「雷なん

かおらんで、曇ってるだけや」、M「空の上なんか見たことあるわ、前に飛行機で。なあー」、H「僕だっけ見たことある、毎日見る。今日も見る」、M「しえーっ!」(『おそ松くん』のポーズです)……話をしながら、ふたりの気持ちは盛り上がりつついきます。M「雷が落ちてきて、ほんで雨が降ってきたことしよっか」、H「オレ、おひさま描くわ、こっちに描くぞ」、M「おひさまがどうして出てるねん?」、H「あははは(笑)」、M「きつねの嫁入りか? 狸の嫁入りか?」、H「ここが公園で、こっちが入口」……相手へのアイデアの「提案」や「宣言」、自分が描いたものの「説明」、それに対する「指摘」も、愉快的様子でやりとりが進んでいきました。

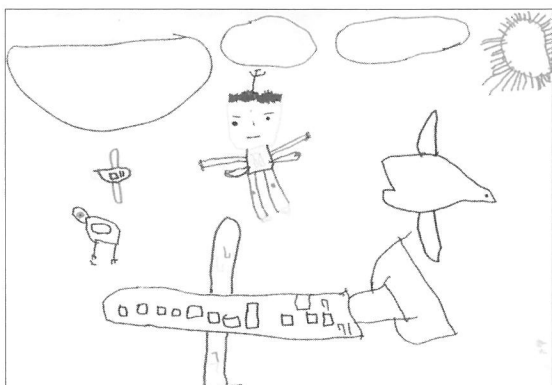


図1 Mくんの「空の上の世界」



図2 Hくんの「空の上の世界」



図3 MくんとHくんの共同画

相手の言葉や絵に触発されてお互いのイメージが広がり、ふたりで描いた絵には、ひとりの時には出てこなかった雷、雲に乗って手をつないでいる自分たち、そして地上の世界には公園や動物園、たくさん猿といった新しいアイデアも描き加えられました。仲良しの友だちと一緒に描くからこそ、ひとりで描くとはちがった楽しさが溢れ、表現がふくらんでいったのだと思います。

考えて折り合いをつける

途中、HくんとMくんの描こうとする認識がズレる場面がありました。Hくんが「下、描かへんのか? 下」と言っていて、いきなり紙の左から右に基底線(地面)を引きました。